

2019年9月 10日
第123号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

各地の取り組みを紹介します。

●東京

3000万人署名 100万筆目標まで残り2万1446筆!!

北区労連、墨田労連、世田谷区労連から署名ハガキが届きました

参院選（7/21）で、自・公・日本維新の会などの「改憲勢力」は、3分の2を割り込みました。しかし安倍首相は、「憲法の議論を国会でいよいよ本格的に進めていくべき時を迎えている（8/13）」と、秋の臨時国会で改憲議論を本格化させようとしています。今秋の運動がより一層重要となっています。

東京地評の9月10日現在の署名到達は、97万8554筆となりました。100万筆目標まで残りわずか2万1446筆です。すべての組織であと300筆分を積み上げることで達成します。各組織で署名集計をやり切り、東京地評定期大会（9/29）までになんとしても目標を達成しましょう。

9月9日には、北区労連、墨田労連、世田谷区労連から署名ハガキが届きました。北区労連は8月7日には北区・王子6丁目の団地で、8月19日には神谷6丁目の団地で1500枚以上の署名ハガキを撒ききりました。墨田区労連も、墨田区・立花の団地で年金者組合の協力のもと署名ハガキ500枚を撒ききりました。

世田谷区労連は、ティッシュに署名ハガキを差し込み駅頭で配布しています。9月9日に三軒茶屋駅頭で行った宣伝では、18人の参加のもと、3000万署名45筆を集めるとともに、署名ハガキやチラシの入ったティッシュ450枚を配りました。



新宿

駅前宣伝行動

子どもづれの女性が多く署名

みんなの新宿をつくる会は8月30日、四ツ谷三丁目丸正食品前で3000万人署名宣伝を実施し、26人が参加しました。チラシ100枚を配布し、3000万人署名17筆を集めました。子どもづれの若い女性が多く署名してくれたのが特徴的でした。宣伝中の組合員に話しかけてきた60代男性は、「9条は理想論だ」「北方領土問題の解決が先だ」と言っていたが、対話する中で共感し、最後には署名してくれました。



（東京地評改憲阻止闘争本部 FAX・MAIL ニュースより）

●岩手

岩手県知事選 野党共闘で達増氏が圧勝

いわて労連から結果報告と御礼のメッセージが届きました。

野党共闘でたたかわれた岩手県知事選が9月8日に投開票され、日本共産党、立憲民主党、国民民主党、社民党の推薦で4選をめざした達増（たっそ）拓也氏（55）が、自公推薦で元県議の及川敦氏（52）に圧勝しました。達増氏は得票率で72・15%を獲得しました。いわて労連は9月9日、下記のとおり、「岩手県知事選挙の結果について（報告と御礼）」を発出しました。

2019年岩手県知事選挙の結果について（報告と御礼）

与野党対決として全国的に注目された2019年岩手県知事選挙は、県政史上初めて「国政4野党と市民の共闘の現職」対「自民・公明推薦の新人」による一騎打ちで争われ、現職の達増拓也候補が402,803票（得票率72.15%）を獲得し、岩手県内33市町村の全てで多数を獲得し、文字通り圧勝しました。

全国の皆さんから多くの支援決定通知書を頂き、全労連から激布が寄せられるなど達増陣営を大きく励まして頂いたことに心から感謝申し上げます。

この選挙の勝因は、達増候補を推薦した4党及びいわて労連も含む県内のすべての労働団体や多数の民主団体が「結集」して達増氏を支援し、達増氏の当選のために行動したことが功を奏したものです。また、東日本大震災津波からの復興の取り組みや県民の暮らしと福祉を守る達増県政を多数の有権者が評価し、今後の県政運営が継続・発展されることを期待して投票したものといたします。

達増氏が共産党岩手県委員会との政策協定で結んだ4つの柱は「1. 被災者の命と暮らしを守る東日本大震災からの復興の課題」、「2. 県民の暮らしと福祉を守る県政」、「3. 雇用確保と産業振興」、「4. すべてのこどもの権利、個人の尊厳を大切にする教育」で具体的には14項目、「東日本大震災津波の被災者の国保・後期高齢者医療の医療費と介護保険等の自己負担免除制度を2020年も継続すること」、「災害公営住宅でのコミュニティ確立支援と孤独死防止」、「再建事業者に対する特別の支援の強化」、「こどもの医療費窓口負担免除制度を早期に中学校まで拡充する」、「中小企業の雇用確保と支援強化で長時間労働是正と待遇改善」、「農林水産業を基幹産業として再生に組み込み、種子条例の早期制定をめざす」、「テストづけの競争主義的教育のあり方を見直す」、「いじめからこどもの命を守る」、「教職員によるパワハラ、体罰、暴言等の人権侵害を許さず、教職員の大幅な増員を国に求め業務の抜本的な削減・改善と部活動の改善に取り組む」など、多岐にわたっています。

7月に行われた第25回参議院選挙岩手選挙区でも野党統一候補の新人が自民現職の4選を阻止して勝利したことから、県内野党は野党共闘で今年行われた大型選挙を連勝したこととなります。同時に行われた岩手県議会選挙においては、16選挙区のうち半数の8選挙区が無投票で、残り8選挙区ではどの選挙区も激戦となりましたが、無投票も含む当選した県議48人のうち半数の24人が達増知事を支持しています。

（4人が中立、20人が相手候補支持）。

県議の構成は、現時点では自民党公認が14人で第1党で、国民民主党9人、公明党1人、共産党3人、社民党2人、第2自民党であるいわて県民クラブが5人となっていますが、残り14人の無所属議員の動向によっては第1党が代わる可能性もあります。今年度から始まった新しいいわて県民計画「幸福を守り育てる希望郷いわて」の推進を公約に掲げた達増県政が、沿岸の震災復興の推進とともに実際の指標で県民の幸福度を向上させることができるか、県民が大いに注目し期待しているところです。

改めて、全労連はじめ各単産・地方組織からのご支援に感謝するとともに、今後ますます岩手県政が憲法を守り生かし県民が主人公の民主的な県政と内外から評価されるよう、いわて労連も県民運動を推進する立場で一層奮闘することを表明し、感謝の言葉といたします。皆様からの力強いご支援、誠にありがとうございました。

2019年9月9日

岩手県労働組合連合会 議長 金野耕治